

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.65
2018. May

発行者 琉球病院事務部長
秋好 輝雪

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

写真展「闇から光へ」とシンポジウム&上映会に参加して 琉球病院の歴史と今後 院長 福治康秀

先日、4月22日(日)に、沖縄県立博物館・美術館の県民ギャラリーで開催された写真展「闇から光へ 知られざる沖縄戦後史～精神保健の歩みを見る・聞く」(4月17日～22日開催)と同館2階講堂で開催されたシンポジウム&上映会に参加しました。皆さんの中には、マスコミや新聞などでご覧になった方や実際に参加した方もいて、すでにご存知の方も多かもしれません。

当院は、沖縄県で最初の精神科病院で、今回のテーマについてかなり関与した病院であり、多くの私宅監置の方々を受け入れたという歴史的事実があります。世代も変わり、その事実を知る職員も少なくなっている中、管理者としてその事実をしっかりと受け止めておく責任があると感じ参加しました。

当時の、医療状況や経済状況、おかれた政治的な状況、そんな中やむを得ず私宅監置を継続せざるを得なかったご家族の苦悩は、計り知れないものがあつたと感じました。その時代に数少なかった病院の中で、その役割を担った病院の一つとして、その歴史的事実をしっかりと後世に残す責任が、当院にあるものと思います。

各パネリストの生の声、その時代に関わった方々の苦労や時代背景の事実、あらゆる思いが湧いてきて、どのように考えたらいいのか、頭の中でまとまらないまま、でもこの歴史的事実はやはり後世に残さねばという思いを改めて確認しました。この事実については、これを残す必要があるのかなど、いろんな考え方があるものと思います、ただ状況が許すのであれば、しっかりと残していきたいですし、その役割を果たしていきたいと考えます。

今後の当院の役割としては、二度とその時代のような状況にならないよう、医療の質を向上させ、人権にしっかりと配慮した医療の提供をし続けることと考えます。改めてその重要性を確認し、今後とも「この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である」という理念を中心に置き、医療・サービスの提供を続けます。



院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
ユニット 4床
- ・重症心身
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



●アクセス

路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス
[77番名護線]浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車 / 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・ 出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟(第1期工事)完成 平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管盛替工事 完成 平成29年2月
- 新病棟(第2期工事) 完成予定 平成30年10月

教育・研修

- CVPPP(包括的暴力防止プログラム)フォローアップ研修
日時：平成30年5月14日(月) 8:30～17:00
場所：琉球病院研修棟会議室・ジム室

●地域医療連携室だより

当院には、認知症治療病棟があり、地域医療連携室を相談窓口として医療機関、包括支援センター、ご家族の方からの電話・来所相談を行っています。

近年は老人保健施設や有料老人ホームからの受診・入院相談も増加しています。

ご家族、地域関係機関と連携を図りながら患者様が安心して生活できるよう施設や在宅支援サービスの調整を行っていきます。

何かお困りのことがあれば、お気軽に地域医療連携室へご相談ください。



4月30日現在

精神科病棟
4床

認知症
2床

アルコール
12床

児童思春期ユニット
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

NHO PRESS～国立病院機構通信～について

国立病院機構通信
PRESS
琉球病院は、国立病院機構
(NHO: National Hospital
Organization)という143の病院
からなる国内最大級の病院ネット
ワークの病院です。

国立病院機構(NHO)という病
院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動
をしているのかを紹介する「NHO PRESS～国立病院機構
機構通信～」を発行しています。外来ロビーに設置し
ていますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載して
いますので、そちらもぜひご覧になってください。[NHO
PRESS]で検索してください。

NHO PRESS 検索 検索 QRコード

お問い合わせ時間

8:30～17:15(土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133(代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は234例になりました。平成30年3月のCLZ導入は4例で、すべて他の病院からのご紹介の患者様(入院中3名、通院中1名)でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成30年3月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

昨年度、子ども心療科を新規で受診された患者様は406名でした。受診希望者は年々増加の一途を辿り、現在では受診までにかかり長い期間を頂いています。気になった時にすぐに診察対応できない状況にあることに、スタッフも心苦しく思っております。

今年度は子どもを担当する医師も増え、また、昨年に引き続いて業務の効率化を図ることで、待期間が短くなるよう工夫を重ねているところで。

ケースの緊急度によっては、早めの受診をご案内する場合がございます。受診については、まずはお電話でご相談ください。



認知症医療

認知症病棟は患者様が治療、生活を快適に行えるよう療養環境を整えています。ベッド数56床、個室も多く行動心理症状が強い急性期の患者さんをいつでも受け入れられるような体制となっております。

認知症治療には二つの側面があります。1つは、認知症本来の症状である中核症状に対する治療です。病状が進行しないように、今持っている能力を維持していくように関わります。もう一つは、不眠・拒食や思い込み、易怒性、徘徊のような行動心理症状と言われる一時的な症状です。行動心理症状は治療(コントロール)可能です。また、自宅や施設で介護するときにみんなが困っているのが、行動心理症状です。行動心理症状さえコントロールできれば、認知症が進んでも長く住み慣れた地域で暮らしていくことができます。認知症の患者さんが、いつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるよう、より一層、皆様の役に立つ認知症病棟にしていきたいと考えています。

重症心身障がい医療

4月29日、琉球病院で沖縄県重症心身障害児(者)を守る会の定期総会・講演会が開催されました。重症心身障害児(者)を守る会は、「最も弱いものをひとりももれなく守る」という基本理念に基づき、施設対策と在宅対策の運動をすすめ、親の意識の啓発と連携を密にするため、全国に支部を置き、地域活動や施設活動を行っています。守る会は福祉制度が大きく展開されるなかメッセージを発信し続け、今日の重症心身障害児(者)の福祉制度にも大きく影響を与えていることと思います。いわゆる動く重症心身障害といわれる療養介護病棟におきましても、入院に関しまして様々な問題を抱えるようになってきました。利用者の福祉が損なわれる事がないよう、支援させて頂ける環境が整う事を願います。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では3月末現在、外来通院の患者様81名、入院中の患者様26名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

平成29年度1年間の訪問看護ご利用者数は、8,521件ありました。現在、246名の利用者様の登録があり訪問看護を展開しています。4月には、訪問看護のスタッフの人事異動や主治医の変更等で「別れや新たな出会い」の月となります。慣れ親しんだ環境の変化から、何らかなストレスを生じることあるかと思われそうですが、社会生活の中では避けては通れないことでもあります。新しいスタッフとの関係構築が出来るまで、お互い緊張を感じることもありますが、些細な変化でも訪問看護時には相談して下さい。新たな出会いを大切に、強みに変えて行ける様一緒に対処法を考えていきたいと思っております。

臨床研究部活動状況

平成29年度の臨床研究実績と学会開催のお知らせ

平成29年度の当院の臨床研究実績をご報告いたします。論文が8本、学会発表が27題でした。昨年度に比べると論文数は増えましたが(昨年度7本)、学会発表数は減りました(昨年度36題)。一方、厚生労働科学研究、国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究(AMED)の分担班研究は継続しており、さまざまな共同研究にも協力させていただいております。

また、今年度は九州アルコール関連問題学会が平成31年3月22日～3月23日に沖縄県青年会館(那覇市)で予定されております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

